

郵便局や銀行、図書館、役所などへの用事も、定休日にまとめて行くことにしている。1週間前に色づきはじめて山中湖畔の紅葉が、実に見事に真っ赤に染まり、脇見運転の危険性を感じるほどになった。

旭日丘地区の紅葉樹林は、ケヤキにしてもカエデにしても樹木が大きく、観光目的で近年に植えられたものではない。おそらく樹齢100年近いその貫禄が、観る者をしばし感動させる。じゅうぶんに染まった葉が、重厚な枝ぶりとあいまって、末広がりに湖畔の遊歩道をうめつくす。かつて、同じ道を6年間、毎日通勤する時代があったのに、1度として紅葉に目をとめなかった自分の風情のなさを苦笑する。若かった自分はいったい何を見ていたのだろうか？

銀行での用事を早々に終え、湖畔に車を停めた。一番背の高いケヤキの下まで歩き、空を見上げてみた。一瞬、世の中の何もかもを肯定したい気持ちになる。未熟だが、こころ踊った春、悔やむことの多き荒れた夏、それでもたどり着いた安堵の秋、そして……きびしい冬が間近だというのに、今はだれも、紅葉の1ヵ月後のすがたを想像しようとはしない。1ヵ月後にふたたび湖畔を歩く観光客もいないだろう。

紅葉を人生の秋になぞらえるなど、そんな悠長な思いに酔っぱらってはられない。